

事例

10

あの企業はこう使っている!

事例に学ぶIT・IoT導入

赤松事務機株式会社



香川県を中心に、金庫設備から最新のITやOA機器の販売・サービスなど幅広く手掛ける企業。地域密着で、ビジネスに安心と安全を提供しています。

赤松事務機株式会社

〒760-0062
香川県高松市塩上町一丁目7番13号
TEL 087-833-3434
HP <https://akamatsu-jimuki.co.jp/>

高松のIT・IoT先進企業(リーディングカンパニー)が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。
第10弾は、赤松事務機株式会社。代表取締役の片松保佳さんにお話を伺いました。

なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「ウチの会社で、どう使ったらいいかイメージが湧かない...」。
そんな皆さま必見のコラムです。

ITツール導入の基本は情報セキュリティ対策から

安心を提供するからこそ万全の対策を

赤松事務機では、UTMを設置し、情報セキュリティ対策に取り組んでいます。現在はオフィス関連用品などの販売を行っていますが、ルーツは金融機関向け金庫設備事業。終戦後の復興の中、家屋が消失しても金庫だけは無事だったことで、金庫設備業の需要が増加し事業を始めるきっかけとなりました。現在では、目に見えない会社の資産も守れるよう、中小企業の情報セキュリティ対策支援も行っています。「ITやデジタル化など企業を取り巻く状況について勉強する中で、新たな脅威から地元の



お客様を守ることも、長年セキュリティに携わってきた当社の役割だと思つた。今はたつた1件のウイルスメールによって、企業が倒産に追い込まれる時代。ノーガードで向き合うには、あまりにもリスクが大きすぎる。ITツール導入の基本はセキュリティ対策。セキュリティ機器と従業員の意識向上、この2つが欠かせない。」と片松社長。

事例: ヒト

強固な対策には必須 従業員の情報リテラシー向上

情報セキュリティ対策は、どんなに強固でも50%の防御が限度だと私は考えます。残りの50%は「人」です。システムで自動的に防いでも自ら危険に飛び込んで意味を成しません。従業員がどれだけサイバー攻撃やセキュリティ対策を意識するかが、自

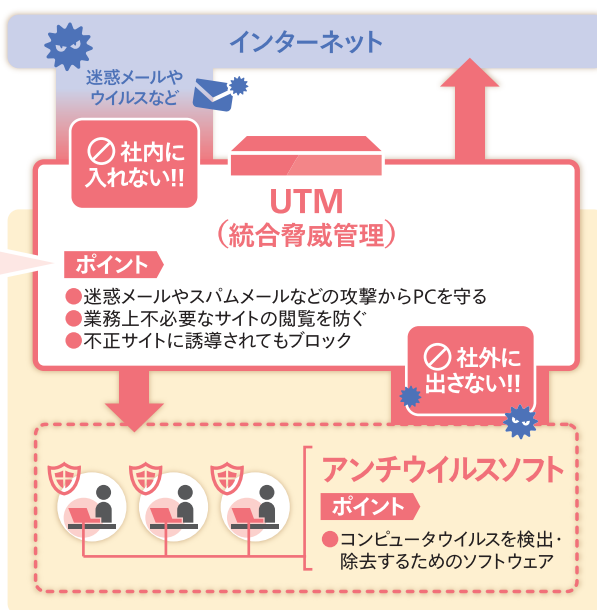
社はもちろん取引先への被害を抑える最後の要になると思つています。現在、不安定な社会情勢に乗じたサイバー攻撃が増えています。メールの添付ファイルを不用意に開かない、サイバー攻撃の最新動向を共有する等一人ひとりが意識できる体制づくりを行っています。

事例: モノ

UTM+アンチウイルスソフト 多重防御で外部脅威から情報を守る

同社ではUTM(統合脅威管理)とアンチウイルスソフトの両方を用い、多層防御を取り入れることで、外部脅威から情報を守っています。UTMは高度なセキュリティ機能を持っており、かなりの攻撃を防ぐ事ができま

すが、UTMの導入だけでは脅威は防げません。そこで、UTMとは別にアンチウイルスソフトを各端末に取り入れ、さらに1階層を増やしすり抜けた脅威をできるだけ防ぐ仕組みを導入しています。



UTM(統合脅威管理)とは?
複数のセキュリティ機能を一つに集約した機器。様々な対策が1つで済み、運用の手間とコストを抑えてセキュリティを強化することができる。外部からの脅威をブロックし、ウイルスに感染した場合、社外への情報漏洩をブロックする役割等も担う。